# 7月の道内景況 情報連絡員レポート

# コロナ禍前に人流は戻りつつあるが、エネルギー価格高騰や人手不足が景気回復への足かせとなっている。

#### 概況

前年同月との比較では、「景況」、「売上高」、「収益状況」の全てが改善している。

また、6月から7月の推移では、「景況」、「収益状況」は低下しているが、「売上高」は、改善している。

情報連絡員によると、製造業からは、物流の動きが鈍く、受注量が減少していることや人材の確保がより困難になっているなどの声が寄せられている。非製造業からは、インバウンドの増加やインターハイの開催により、人の往来が増えた影響から、来道客の入込みがコロナ禍以前に戻りつつあるとの声がある一方で、電気料金や燃料費価格の高止まりに加え、人手不足や人件費の上昇が経営を圧迫し、苦慮しているとの軽告があった。

# 主要 DI の推移 20.0 10.0 -10.0 -20.0 -30.0 -40.0 -50.0 B36 7 8 9 10 11 12 B41 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 B51 2 3 4 5 6 7

## 景況天気図(前年同月比)

	全業種			製造業			非製造業		
	6月	7月	前月比	6月	7月	前月比	6月	7月	前月比
業界の		470	△6.3	470	443	4.2			△12.1
景況	△7.0	△13.3	`*	△29.2	△25.0	1	4.3	△7.8	7
売上高			6.4		440	△8.3			12.9
ルル二同	4.2	10.7	1	△8.3	△16.7	7	10.6	23.5	1
収益		470	△3.5	44	44	4.2			△8.0
状況	△8.5	△12.0	*	△29.2	△25.0	1	2.1	△5.9	*

全業種 製诰業 非製造業 6月 7月 前月比 6月 7月 前月比 6月 7月 前月比 販売 **Ö**~  $\triangle 1.7$ ď~ Ö~ △8.3 1.1 価格 31.0 29.3 20.8 12.5 取引 △2.3 0.0 △3.4 △7.0  $\triangle 9.3$ △8.3 △8.3 △6.4 △9.8 資金  $\triangle 5.3$ △8.3 △3.9 繰り △12.5 △1.4 △6.7 △4.2 0.0  $\triangle 3.9$ 雇用 4 100 44  $\triangle 3.5$  $\triangle 8.3$  $\triangle 1.0$ 人員 △8.5 △12.0 0.0 △8.3 △12.8 | △13.7

天気図<mark>の見方</mark> 各景況項目について調査月と前年同月を比較して、「増加」(または「好転」) したという回答 (構成比) から 「減少」(または 「悪化」) という回答 (構成比) を差し引いた値 (DI) をもとに作成。天気の表示は凡例のとおりです。

#### 製造業

#### 木材・木製品

- ●7月期のトドマツ原木の工場への入荷は、6月期同様、順調に推移しており、落ち着いている。市況については、在庫が不足している状況にはなく、弱保合で推移している。また、国有林材のトドマツ一般材の一部が不落となっている状況にあり、各製材工場は、受注が思わしくなく、流通業者も低価格での注文であることから大径材が敬遠されている。
  - ・7月期のカラマツ原木についてもトドマツ原木同様に、順調に推移している。先月に引き続き、需要が落ち込んでいることから、原木不足は解消され、必然的に在庫が増えており、市況についても弱保合で推移している。また、国有林材のカラマツ一般材の一部が不落となっている状況にあり、道内及び本州の方面の合板工場が引き続き生産調整をしていることから、在庫が港に溢れ、買い控えられた。しかしながら、一部でカラマツ一般材が落札されており、状況を聞き取った結果では、小・中径材は良いが大径材では価格が合わないことから敬遠されている。
  - ・トドマツ製材市況は、先月に引き続き景気後退等の影響により、新規住宅需要が芳しくないことから、受注は減少している。産業資材も減少傾向で推移している。価格は弱気配〜保合の状況にあり、カラマツラミナーについても、減少傾向で推移している。また、市況はカラマツ、エゾ・トドマツは弱含みが見込まれる。紙原料は、不足気味で原料材価格が上昇しており、原料の取り合いが全道的に見られている状況であるが、国内チップ買取価格の上乗せはなく、希望価格にはほど遠い状況が続いている。木質バイオマス原料については、順調に集荷されている。先月に引き続き地域によっては大口発電か小口発電が動き出していることから不足している。
- ●中国経済の回復遅れや国内の住宅着工数の減少、更に物価高騰による消費者の 購買意欲の減少などが影響しているのか、物流の活発な動きがみられない。そ の結果、パレットや梱包材の物流資材の消費が停滞していることで、製材受注 量も回復していない。 (十勝)

#### 窯業・土石製品

- ●7月の生コン出荷量はおよそ321千 m³。(前年同月比92.5%)
  - ・地域別には、前年同月を上回った分会は 27 分会中、12 分会で、前年(増加は 9 分会)を上回った。前年同月と比較して、増加したのは千歳地区、西十勝、北東十勝など。一方、減少したのは道南、宗谷、釧路などであった。

#### (全迫

- ●釧路地域では、公共事業のうち路盤整備工事が減少傾向にあるため、砂利・砂の需要が伸び悩んでいる状況(高規格道路工事の本格化による需要増に期待している)。
  - ・販売価格は4月に上昇したものの、燃料や電気代の高騰などにより収益は上向かない。
- ・従業員が高齢化する中、人材の確保はますます困難になっている。 (全道)
- ●7月も大型物件が少ない中で、受注出来ていた官庁物件(学校)の残工事の売上が上がり、昨年実績を上回ることが出来た。しかし、それ以外は中小規模の

改築や新築住宅向けの売上ばかりである。

(全道)

#### 一般機器

- ●物価や材料費高騰、電気料金値上げの影響で全体的に受注の動きが悪い。
  - (札幌)
- ●業界の景況については"好転"としているが"上向き傾向"の状況である。

(帯広)

- ●資材・燃料・電気代の高騰が継続している。
  - ・資材の入荷が遅れ気味である。
  - ・観光・サービス業は上向き傾向である。新幹線延伸に関連して土木資材は動き出したが、まだ一部のみ。 (全道)

#### その他

●味噌出荷量(道内);単月(令和5年6月) 前年対比 89.1% 要計 (1日~6日) 前在対比 943% 醤油出荷量(道内);単月(令和5年6月) 前年対比 101.6% 累計 (1月~6月) 前年対比 103.0% 味噌出荷量(全国);累計(1月~5月) 前年対比 95.7% 醤油出荷量(全国);累計(1月~5月) 前年対比 95.7%

- ・令和5年6月の道内単月の出荷量は、味噌は相変わらず悪く、醤油は前年対 比増。1月~6月の味噌・醤油の累計実績も同様の傾向。全国の1月~5月 の味噌・醤油の累計出荷量実績も悪い。
- ・出荷量滅が組合の原材料の共同購買事業にも影響し、手数料収入にも影響が出てくる懸念がある。 (全道)
- ●悪いながらも荷動きが多少活発化している。観光客は増加しているが、人手不 足感がよりいっそう強まっている。
  - 数量の伸びのなさを多くのメーカーは価格を維持して耐えている体制だが、 一部の大手グループは量の確保に動いている。
  - ・企業としての差別化の方向として、ゼロカーボンに取り組む企業が出始めた。 (全道)

### 非製造業

#### 卸売業

- ●インパウンドの増加とコロナが5類に移行したことによる国内消費活動の進展により、全般的に売上高は増加している。一方で感染症は増加を続けており、 検査機器・試薬等の売上も増加している。
  - ・靴・履物・鞄等では小売の廃業や再編が進み、卸の販路が狭くなりつつある。
  - ・雇用人員は減少傾向で、人材の確保が難しいとの声が多い。
- ・組合施設の会議室・展示室需要はコロナ以前を上回る回復状況で、好調な稼働率となっている。 (札幌)
- 令和5年7月期の当組合買付高は仲卸、荷受1,918,608千円で、先月の6月期実績額1,691,166千円より227,442千円ほど増加した。夏場の中元需要の増加と生鮮品の高値に押された形である。
  - ・8月の夏休み時期における観光需要の増加に期待したいが、内需消費は低迷

は満室。観光・インバウンドの来街者は、戻りつつある。

(帯広)

●全道で7月の気温が上昇したため、夏物機器の販売が増加し、在庫の売上高が 進捗している。 (全道)

#### 小売業 —

前年比較 物販見込 98.8%

金 融 94.7%

- ・インターハイの旭川開催、観光客の増加により、宿泊施設は満室状態で宿泊 料金が高騰している。商業施設や飲食店は込み合い、旭川全体の景気は上昇 していると思われるが、地元顧客の売上は各種値上げが影響し、前年割れと
- ●十勝では7月下旬より最高気温が35度前後の猛烈な暑さが続いており、7月 26日には十勝で初めて熱中症警戒アラートが発令され、その日から3日連続 でアラートが出るなど異例の事態になっている。帯広は 7 月 24 日~ 8 月 2 日 まで10日連続30度以上となり、その内4日間は猛暑日だった。そんな中、 帯広の街中では、ビアフェスタなど、多数のイベントが開催されている。8月 4~6日には、七夕祭りが開かれる。この七夕祭りは66回目を数える帯広の 夏の風物詩で、紙花などで作る大型の七夕飾りが、アーケードを彩り人気を集 める。七夕飾りを作成するにあたり、作業時の密を懸念してコロナ禍では中止 していたため、4年ぶりの開催となる。七夕祭りに合わせ、ビアガーデンやT シャツひらひら展示なども企画される。暑さの中、これらの多彩なイベントで 心もお腹も満たして街の活性化に繋がれば嬉しい。 (帯広)
- ●7月に入り観光客(中国)が増加している。しかし、コロナ以前の爆買いする 客層ではない。当市場には2軒の食堂があるが、両店は場内で買った商品を持 ち込んでの食事は断っているので、中国のお客様のニーズに合っていないため か、買い物せずに帰る人が多い。また、会社の御中元はコロナ以前に戻ってい ない。一方で、一般のお客様が自分のために高額な商品を購入している。

- ●7月については「前年よりは微増」との回答が比較的多かったが、エネルギー 価格の高騰により、収益はさほど変わっていない。市内では、観光客が急激に 増加したことでホテルや飲食店などは連日賑わいを見せているが、衣料、宝 飾、化粧品等を扱う店舗が大半の当組合員店においては、残念ながら消費の対 象になっていないのが実情である。
  - ・携帯電話販売業、旅行業、保険業の3事業中、旅行業が秋の旅行シーズンに 向け活発な動きとなっている以外は依然厳しい状況が続いている。 (釧路)
- ●昨年同月より仕入価格が下がっているため、収益は上昇している。しかし、節 約のためか販売数量は落ちているので、経営状況が好転したとは言えない。

- ●7月3日のWTI 原油価格は69.79ドルで、先月から見て0.31ドルの反落で スタートした。これは、米国の経済指標が低調だったことが主要因とみられ る。その後 OPEC が世界のエネルギー需要が上振れするとの見方を示したこと から、世界的な需要が引き締まるとの見方で大きく反発した。31 日の WTI 原 油価格は81.80ドルとなっている。
  - ・7月は国の元売りへの補助の減額、更に原油価格も大きく変動し、末端市況 も大きく上昇改定となった。
  - ・毎月のごとく量販店の価格に追従せざるを得ない状況から、利益は圧縮状態 となっている。
- ・6月からは元売りに対する補助が10%減額、以降2週ごとに10%追加減額 となっている (補助額の縮減)。そのため、今後原油価格変動により末端価 格が大きく変動する可能性がある。
- ●商品価格が高騰し、ママチャリの価格は4万円超えとなっている。
  - 売り上げの減少が止まらない。

(全道)

- ●今月 14 日で終了した「全国旅行支援」の電子クーポン利用は、函館朝市でも 年明けから順調に推移し、今月は半月ながら5月とほぼ同等の利用額となり、 1月から終了までの期間合計額は、4200万円以上の額面規模となった。おか げさまで繁忙期に入り、終了後も連日観光客で賑わいをみせ、コロナ禍前と遜 色ないほどの入込となっている。 (函館)
- ●観光のお客様が増えて、料理店・納品業者が忙しくなってきている。ホテルの 利用者数もコロナ前の状況に近づいてきている。仕入価格が上がり利益額が厳 しいが、売上は良くなっている。9月、10月の秋鮭やサンマの取れ高等の状 況によって、今後の経営に大きな影響が出るため、動向を注視していく。
  - ・電気・ガス価格高騰により固定費が上がり、厳しい。今後、ガソリン料金の 上昇がどうなるかで、経費の負担が大きくなる。 (道央)
- 売上高対前年比 111.5%の実績。
- ・上期(R5.1~6月)対比では、売上高対前年同期比 110%の実績。大口先 の買い増し、仕入値引き上げに伴う売価の値上げなどを主因に増収となり、 コロナ前の売上高を上回った。 (札.幌)
- コロナ 5 類移行後、消費動向がイベント・旅行へ移り、電気代の高騰もあった ことで、耐久消費財は低迷している。今年は特に暑いが、寒冷地のエアコンは
- ◆大手業者の不正問題により、業界全体が冷え込んでいる雰囲気はあるが、お客 様と信頼関係が築かれているお店には特に影響はないと考えられる。毎年お盆 付近は小売が低迷することから、大手業者の不正問題とダブルパンチでの低迷 が懸念される。その他は不変であった。
- 水田地区・畑作地区は、ほぼ順調に進んでいる。
  - ・酪農地区は乳製品の値上げがあり、ギリギリだがなんとか生産を続けてい る。 (全道)
- 新型コロナウイルス感染症も落ち着いたことでホテルの食事がバイキング様式 に戻り、弁当箱等の納品の減少による売上減となった。

●7月共通駐車券の利用は、前年同月比32.0%、買物共通バス券は、前年同月比 92.0%。大型イベント(国際農機展・インターハイなど)開催により、ホテル

#### サービス業 -

(道央)

- ●地質調査及び建設コンサルタント業界は、受注の大半を公共事業に依存してい るため、公共事業、特に建設関連事業の発注内容、量の影響を直に受ける。
  - ・地質調査に関連する公共事業は、大半の組合員で前年に比べて数~10%程 度減少している。一方、道央地区の大型民間プロジェクトに関連する業務を 受注した組合員もあり、経営状況にばらつきが目立つようになってきている。
  - ・燃料、電気、資材価格等の原価高騰により、全組合員が相変わらず厳しい経 営環境下にあるが、「仕方がない」「人件費を含めてゆるやかな価格上昇は積 極的に容認しなければならない」等の意見も経営者サイドからも出てきてお り、経営者マインドが徐々に変化しつつある。 (全道)
- ●状況は変わらず、燃料用重油の高止まりや電気料の大幅な値上が営業に大きな 影響を及ぼしている。10月1日より入浴料金が10円の値上げとなる。

- ●相変わらずの技術人材不足が叫ばれる中で、道内中小 IT 企業に 1990 年前後 に入社したバブル期世代の60歳定年が間近に迫ってきて、さらに人材が不足 する懸念が強まっている。熟練した技能を終わらせないためにも、シニア人材 の一層の戦力化の検討を始めた IT 企業が増加している。定年の延長や再雇用制 度や役職定年制の廃止を通じてシニア人材の活用を促進しなければ、人材の絶 対数が確保できず、増え続けるシステム開発案件に対応できないだけでなく、 事業の存続にも影響することになってしまう。シニア人材自身も、就労に意欲 的でもっと長く働きたい人が多い。今後は、給与水準や待遇を整備して、シニ ア人材の働く場所の確保と役割と意欲を持続させることが必須となる。道内は 中小 IT 企業が多く経営基盤が脆弱で、代表者の高齢化による後継者問題や M & A を含めた事業承継問題を抱える企業が多く、シニア人材の活用と併せての 対策が急務となってきている。 (全道)
- ●集客人数前年比 120%(コロナ前比 91%程度)。インバウンドの回復が大きい ものの、コロナ前との比較では60%前半程度。
  - ・前月と同様に、燃料の高騰、食材、資材の値上げ、バス運転手不足、人手不 足などの課題解決に向けた対策を期待する。
- 現場要員の不足(新規に確保できない)により、仕事量の調整で対応せざるを 得ない。 (旭川)

#### 建設業 -

- ●受注件数の増加と受注価格の上昇により売上高が増加しているものの、原材料 費及び人件費の増加に伴い、収益は必ずしも好転しているとは言えない状況と なっている。
  - ・ただし、受注件数の増加及び売上高の増加から景況は好転の兆しがうかがえ る。また、雇用人員の大きな減少はないものの、新たな人員の雇用に関して は厳しい状況にあり、事業量の増加に伴う必要な従業員の確保ができない状
- ●公共工事、民間工事とも、コロナ期に発注量が抑制されてきたところから回復 し、コロナ前の発注量に回復してきた。官庁工事は、全体的に(建築工事、設 備工事も含め)入札参加業者が減り、特に設備工事で「不調」(参加者無し) のため、工事自体が延期になるようなケースも増えてきた。今後ますます民間 工事の増加が見込まれるため、電気工事も「不調」が起こりうる懸念がある。
  - ・資材高騰、人件費高騰により、発注金額の改善交渉等も取り組んできたが、 十分とは言えないものの、ある程度増額している。民間工事の発注価格が改 善傾向にあることが、官庁工事の「不調」に繋がっており、業界団体にて官 庁積算の改善について陳情している(民間工事が高くなれば、官庁工事も上 げていただかないと入札参加者が居なくなるということ)。
  - ・発注価格は、ある程度改善してるものの、材料費、人件費、光熱費、その他 経費の高騰により、収益状況は改善していない。
  - ・雇用人員について、新卒者の雇用がかなり厳しい状況。少子化の加速に加 え、メーカー、公務員、大手業者の採用が増え、地場中小企業への入職者が かなり厳しい。待遇改善(賃上げ、働き方改革)をよほど進展させないと離 職率も更に高まる懸念がある。
- ■【組合員の業況】

7月中旬に残りの本管工事等が全て発注となった。各社とも数本の工事を抱 えており、年内は多忙である。

各社とも相変わらず公共工事が忙しく、なかなか個人の水道設備修理にすぐ に対応できていない。また、社員の高齢化が改善されない状況が続いている。 【地域の実情】

水田の稲作の作況は良好だが、畑作は水不足気味。市内の建設業関連は、市 の発注工事が多いために各会社は多忙である。

- 売上減少の主な原因は組合員減少によるドライバー不足。
- ・ドライバー不足により5月末をもって長年携わってきた食料品量販店の配達 から撤退した組合員企業がおり、8月末にも撤退予定がある。
- ・仕事はあるのに断らなければならいことが今期より発生したことは、予想し ていたこととは言え、危機感をつのらせている。
- ●農産物の荷動きについて、野菜類は当初低温・少雨の心配が出ていたが、今の ところ順調に生育している。馬鈴薯・玉葱類も順調であるが、ここにきて高 温・少雨の心配が出てきてる。
- ・一般カーゴの荷動きについては、道内発道外向け貨物が依然少なく、偏りが 出ている。
- ・7月中旬以降、高温が続いているため、飲料水の動きが増加している。コロ ナによる規制の解除もあり、全般的な貨物の動きは良化している。 (石狩)
- 前年同月比(6月) 7.30%増加 売上高は、
  - ・乗務員数は、前年同月比(7月) 4.7%減少
  - ・6月分チケット取扱高は、前年同月比 39.37%減少

(旭川)